

尼北だより



学校通信 第499号

平成30年9月28日

尼崎市立尼崎北小学校

校長 都倉 功 充

経験・環境が人を育てる

長雨が続く中、校庭の片隅には彼岸花が咲き、秋の訪れを感じられる頃となりました。今年の9月は、大雨や台風が猛威をふるい、大きな被害も出ました。各家庭におかれましても、たいへんな日々を過ごされたことだと思います。そんな中でも、子どもたちの健康や安全に配慮しつつ送り出してくださいましたことに感謝申し上げます。

9月10日(月)から14日(金)までの4泊5日、5年生が自然学校に行ってきました。これは、兵庫県の環境体験事業の一環として行っているもので、尼崎市は主に美方高原自然の家で行っています。自然の家は、スキー場からさらに登っていった標高720mにあり、豊かな自然に囲まれています。そのなかで、沢登り、ツリーイング、基地作り、キャンドルサービス、天体観測、野外炊飯などを行いました。沢登りでは途中くじけそうになりながらも、登り切った先には、見事な滝と達成感が待っていました。また、自然の中を歩いていると、今まで見たこともないキノコを見つけて驚くこともありました。親元を離れ、テレビやゲームもせず、尼北の仲間と寝食を共にするといった普段とは違った4泊5日でした。豊かな自然・仲間・先生・リーダーや施設の方といった環境のなかで、子どもは貴重な経験をしてきました。これは、これからの学校生活や人生において、プラスとなることでしょう。

沢登り



みんなで食事



タマゴタケ



ツリーイング



先日幼稚園の保育を参観する機会がありました。5歳児が、自分たちで話し合いながら運動会のダンスの動きを考えていく場面でした。園児たちは、3人グループになって、目的意識をしっかり持ちながら「ねえ、どうする?」「こんなの、どう?」と言いながら体を動かしていました。まさに、「主体的・対話的で、深い学び」を目指す教育でした。幼稚園では、小学校に先駆けて、今年から新学習指導要領(幼稚園の場合は、幼稚園教育要領と言います)が完全実施されています。そして、これまで通り、環境設定と援助を大切にしながら、そのうえに、幼児期の終わりまでに育てほしい姿を具体的に示し、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化を図っています。小学校では、幼児教育で身に付けたことを教科等の学びに生かし育てていきます。

学校でも家庭でも、子どもの成長についてはどういう環境で、どのような関わりや経験の中で育つかということが重要です。子どもたちの興味・関心を大切にしつつ、自分で考えさせたり、あきらめず乗り越える姿を称え励ましたり、さらには温かく思いやりのある言葉を交わしたりしていきたいものです。